



2027年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2026年8月4日

上場会社名 株式会社セキド 上場取引所 東
コード番号 9878 URL <http://www.sekido.com/ir/index.php>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 関戸 正実
問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員管理部長 (氏名) 弓削 英昭 TEL 03-6300-6335
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：無
決算説明会開催の有無：無

（百万円未満切捨て）

1. 2027年3月期第1四半期の業績（2026年3月21日～2026年6月20日）

（1）経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2027年3月期第1四半期	1,186	△13.3	△191	—	△205	—	△210	—
2026年3月期第1四半期	1,367	—	△120	—	△136	—	△142	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2027年3月期第1四半期	△66.25	—
2026年3月期第1四半期	△69.91	—

（2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	％
2027年3月期第1四半期	4,010	△113	△2.9
2026年3月期	4,389	45	0.9

（参考）自己資本 2027年3月期第1四半期 △117百万円 2026年3月期 41百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2027年3月期	—				
2027年3月期（予想）		0.00	—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2027年3月期の業績予想（2026年3月21日～2027年3月20日）

（％表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
第2四半期（累計）	3,020	6.4	△145	—	△177	—	△187	—	△58.82
通期	7,550	31.1	85	—	22	—	2	—	0.62

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年3月期1Q	3,225,228株	2026年3月期	3,167,228株
② 期末自己株式数	2027年3月期1Q	3,616株	2026年3月期	3,616株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2027年3月期1Q	3,179,155株	2026年3月期1Q	2,039,248株

※ 添付される四半期財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載している業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、〔添付資料〕3ページ「1. 経営成績等の概況（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(セグメント情報等の注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第1四半期累計期間におけるわが国の経済は、長引く国際紛争や物価高騰など、個人消費や企業業績への影響が懸念される状況が続いております。

当業界においても、金相場の高騰が牽引する貴金属人気や円安によるインバウンド需要など好調な部分もありますが、全体としては、国際紛争の影響が石油価格を押し上げ、物価上昇を引き起こしており、消費に影を落としております。

このような環境下、当社は、主力事業のファッション事業と美容事業による成長戦略に取り組んでおります。

ファッション事業（店舗運営事業）においては、輸入ブランド専門店『GINZA LoveLove』では、プッシュ型自社アプリ、Googleビジネスプロフィール、WEBチラシ等によるデジタルチャネルを活用することで、顧客接点の最大化や情報接触頻度の向上を図っております。商品戦略では、好調な貴金属商品の販売に努めるとともに、在庫については売れ筋商品を見極めて圧縮を図り、商品効率の更なる向上に努めております。

韓国コスメのセレクトショップ『&choa!』では、商品戦略として、アウトレット商材を導入し収益性の向上とともに国内コスメブランドも新規導入し、MZ世代（25歳前後～45歳前後）をターゲットにした新規ブランドを展開しております。また、新たな収益の柱として、現在急成長を遂げているウェルネス市場の中核を担うインナービューティー商材を導入しております。お客様の日常生活に深く根付くことで、安定したリピート購入を生み出す商材と期待しております。

美容事業においては、自社ブランドである、20代から30代の働く女性に向けたオリジナルトータルケアブランド「hada to kokoro（肌と心）」の展開を本格スタートしております。韓国コスメの最新トレンドと、日本の若い女性のスキンケア意識を店舗での販売を通して培ってきたマーケティング力を生かして、メイドインジャパンの高い品質感で日本人の肌に合った製品をカタチにし、J01河野純喜氏をブランドアンバサダーに迎えさらなる認知の拡大と顧客接点の強化を図っております。今後は、通常販売に加え、インバウンド需要に対する施策やアジア圏への輸出も視野に、拡大を目指しております。

一方、輸入総代理店事業については、現在、複数の韓国コスメブランドの輸入総代理店を担っており、それぞれの輸入先企業の日本国内でのブランディング戦略がシェア拡大に重要と考えており、新たなブランドにも積極的に取り組んでまいります。

これらの結果、当第1四半期累計期間の経営成績は、売上高は美容事業の前事業年度から続く終了ブランドの消化作業の影響で自社ブランド及び新規ブランドの立上りに遅れがあり、売上高は1,186百万円（前年同期比13.3%減）となりました。また、利益面では、売上高の不足分と自社ブランドのブランディング費用が先行したことなどにより営業損失は191百万円（前年同期は120百万円の営業損失）、経常損失は205百万円（前年同期は136百万円の経常損失）、四半期純損失は210百万円（前年同期は142百万円の四半期純損失）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

[ファッション事業]

ファッション事業においては、輸入ブランド専門店『GINZA LoveLove』10店舗と韓国コスメのセレクトショップ『&choa!』を前期末に1店舗出店し19店舗としております。『GINZA LoveLove』では商品戦略として、好調な貴金属と中低価格帯の商材の品揃えを強化いたしました。また、『&choa!』ではアウトレット商材と国内コスメブランドの品揃えを追加するなど、お客様が、買い物をしやすく、また、リピートにつながるよう努めました。これらの結果、売上高は825百万円（前年同期比4.5%減）となりましたが、利益面では、原価高とコスト高の影響でセグメント損失は45百万円（前年同期は28百万円のセグメント損失）となりました。

[美容事業]

美容事業においては、前年に続き終了ブランドの消化と自社ブランド及び新規総代理店ブランドの導入に注力いたしました。特に自社ブランドのブランディングは今後の業績につながることを踏まえ、手間と必要なコストを投入しております。これらの結果、売上高は279百万円（前年同期比36.6%減）、セグメント損失は58百万円（前年同期は17百万円のセグメント損失）となりました。

[賃貸部門]

賃貸部門では、売上高は8百万円（前年同期比0%増）、セグメント利益は7百万円（前年同期比1.1%減）となりました。

[外商部門]

外商部門では、売上高は72百万円（前年同期比33.9%増）、セグメント利益は7百万円（前年同期比47.4%増）となりました。

（2）当四半期の財政状態の概況

（資産）

当第1四半期会計期間末の資産は、総資産は4,010百万円となり、前事業年度末に比べ378百万円減少いたしました。

流動資産は3,002百万円となり、前事業年度末に比べ407百万円減少いたしました。これは主に、終了ブランドの消化などにより商品が183百万円減少したこと、新規ブランドや自社ブランド展開に伴う運転資金の増加により現金及び預金が319百万円減少したことなどによります。

固定資産は1,008百万円となり、前事業年度末に比べ29百万円増加いたしました。これは主に、時価評価により投資有価証券が26百万円増加したことなどによるものであります。

（負債）

当第1四半期会計期間末の負債は4,124百万円となり、前事業年度末に比べ219百万円減少いたしました。

流動負債は3,462百万円となり、前事業年度末に比べ170百万円減少いたしました。これは主に、新規ブランドの展開による輸入決済の増加などにより支払手形及び買掛金が86百万円減少したこと、自社ブランドの展開に伴うブランディング費用の支出などにより未払金が60百万円減少したことなどによるものであります。

固定負債は662百万円となり、前事業年度末に比べ48百万円減少いたしました。これは主に、約定返済により長期借入金が29百万円、償還により社債が20百万円減少したことなどによるものであります。

（純資産）

当第1四半期会計期間末の純資産は△113百万円となり、前事業年度末に比べ159百万円減少いたしました。これは主に、新株予約権の行使による資本金13百万円、資本剰余金13百万円の増加はありましたが、四半期純損失210百万円を計上したことによるものであります。

これらの結果、自己資本比率は△2.9%（前事業年度末は0.9%）となりました。

（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明

第1四半期累計期間の業績については、売上高の遅れはあったものの、美容事業での自社ブランド「hada to kokoro（肌と心）」のアンバサダー起用による販促効果が期待できること、第2四半期は美容事業の季節商材が動く時期となることなど、取扱いブランドの売場確保に注力し遅れの挽回に努めてまいります。また、新たな韓国コスメ商材の輸入総代理店契約も積極的に行ってゆく方針であります。

これらの状況を踏まえ、2026年5月7日に「2026年3月期決算短信」において公表いたしました第2四半期累計及び通期の業績予想に変更はありません。

（4）継続企業の前提に関する重要事象等

当社は、美容事業の主力ブランドの輸入総代理店契約終了による売上高の減少などにより、前事業年度までの2期連続の営業損失、経常損失、当期純損失並びに営業キャッシュ・フローのマイナスを計上いたしました。また、一部の取引先金融機関と締結する「譲渡担保権設定契約書」に係る財務制限条項に抵触しております。以上の状況から、継続企業の前提に関する重要な疑義が存在しております。

当該状況を解消するための対応策及び継続企業の前提に関する詳細につきましては、「2. 四半期財務諸表及び主な注記（3）四半期財務諸表に関する注記事項（継続企業の前提に関する注記）」をご参照ください。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2026年3月20日)	当第1四半期会計期間 (2026年6月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,018,991	699,924
売掛金	240,514	252,677
商品	1,935,773	1,752,643
預け金	121,445	97,150
その他	96,158	202,726
貸倒引当金	△2,538	△2,659
流動資産合計	3,410,344	3,002,461
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	15,048	19,332
工具、器具及び備品（純額）	12,527	11,726
土地	429,273	429,273
有形固定資産合計	456,848	460,332
投資その他の資産		
投資有価証券	163,673	189,916
関係会社株式	15,000	15,000
差入保証金	342,213	342,217
その他	963	928
投資その他の資産合計	521,849	548,061
固定資産合計	978,698	1,008,393
資産合計	4,389,043	4,010,855

(単位：千円)

	前事業年度 (2026年3月20日)	当第1四半期会計期間 (2026年6月20日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	476,484	390,088
短期借入金	2,453,300	2,453,300
1年内償還予定の社債	70,000	70,000
1年内返済予定の長期借入金	116,568	116,568
リース債務	2,369	2,376
未払金	242,523	181,796
未払法人税等	18,420	4,700
預り金	23,303	23,323
契約負債	25,436	33,808
資産除去債務	38,812	38,812
株主優待引当金	64,538	64,538
店舗閉鎖損失引当金	26,821	26,821
その他	74,140	56,057
流動負債合計	3,632,719	3,462,191
固定負債		
社債	115,000	95,000
長期借入金	204,535	175,393
リース債務	1,608	1,012
繰延税金負債	15,864	22,191
退職給付引当金	79,681	79,066
役員退職慰労引当金	109,800	109,800
資産除去債務	119,897	119,897
長期預り保証金	29,980	29,980
長期未払金	34,821	30,229
固定負債合計	711,189	662,570
負債合計	4,343,908	4,124,761
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,000	23,119
資本剰余金	1,423,012	1,436,131
利益剰余金	△1,490,439	△1,701,058
自己株式	△5,083	△5,083
株主資本合計	△62,511	△246,891
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	103,841	129,228
評価・換算差額等合計	103,841	129,228
新株予約権	3,804	3,756
純資産合計	45,134	△113,906
負債純資産合計	4,389,043	4,010,855

(2) 四半期損益計算書

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自 2025年3月21日 至 2025年6月20日)	当第1四半期累計期間 (自 2026年3月21日 至 2026年6月20日)
売上高	1,367,957	1,186,053
売上原価	990,075	895,664
売上総利益	377,881	290,389
販売費及び一般管理費	498,645	482,316
営業損失(△)	△120,764	△191,927
営業外収益		
受取利息	90	563
受取配当金	888	860
投資有価証券売却益	—	5,841
その他	215	34
営業外収益合計	1,194	7,299
営業外費用		
支払利息	12,269	16,462
社債利息	442	485
新株予約権発行費	1,230	—
その他	2,578	3,429
営業外費用合計	16,520	20,378
経常損失(△)	△136,090	△205,005
税引前四半期純損失(△)	△136,090	△205,005
法人税、住民税及び事業税	5,608	5,612
法人税等調整額	1,128	—
法人税等合計	6,736	5,612
四半期純損失(△)	△142,827	△210,618

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第1四半期累計期間(自2025年3月21日 至2025年6月20日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	合計
	ファッション	美容	賃貸部門	外商部門	計		
売上高							
顧客との契約から生じる収益	865,316	439,909	—	53,880	1,359,107	—	1,359,107
その他の収益	—	—	8,850	—	8,850	—	8,850
外部顧客への売上高	865,316	439,909	8,850	53,880	1,367,957	—	1,367,957
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	865,316	439,909	8,850	53,880	1,367,957	—	1,367,957
セグメント利益又は損失(△)	△28,267	△17,140	7,676	5,137	△32,593	△103,496	△136,090

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△103,496千円は、報告セグメントに帰属しない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の経常損失としております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期累計期間（自2026年3月21日 至2026年6月20日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	合計
	ファッション	美容	賃貸部門	外商部門	計		
売上高							
顧客との契約から生じる収益	825,951	279,102	—	72,149	1,177,203	—	1,177,203
その他の収益	—	—	8,850	—	8,850	—	8,850
外部顧客への売上高	825,951	279,102	8,850	72,149	1,186,053	—	1,186,053
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	825,951	279,102	8,850	72,149	1,186,053	—	1,186,053
セグメント利益又は損失(△)	△45,443	△58,474	7,588	7,570	△88,758	△116,247	△205,005

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△116,247千円は、報告セグメントに帰属しない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の経常損失としております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、当第1四半期会計期間において、第三者割当による新株予約権の権利行使により、資本金及び資本剰余金がそれぞれ13,119千円増加いたしました。

この結果、当第1四半期会計期間末において資本金が23,119千円、資本剰余金が1,436,131千円となっております。

(継続企業の前提に関する注記)

当社は、美容事業の主力ブランドの輸入総代理店契約終了による売上高の減少などにより、前事業年度までの2期連続の営業損失、経常損失、当期純損失並びに営業キャッシュ・フローのマイナスを計上いたしました。また、一部の取引先金融機関と締結する「譲渡担保権設定契約書」に係る財務制限条項に抵触しております。以上の状況から、継続企業の前提に関する重要な疑義が存在しております。

当社は、当該状況を解消するために下記のとおり対応しております。

(1) 事業基盤の強化

当社は、美容事業において、韓国コスメブランドの輸入総代理店を担うことで、ここまで順調に業績を伸ばしてまいりました。しかし、輸入総代理店契約の解除等のリスクもあるため、複数のブランド、ジャンルの商品に取組んでゆくことが肝要であり、現在は、一昨年から取り組む新商材である美顔器などのデバイス分野の商材や自社ブランド製品の営業力強化に取り組んでおります。

また、ファッション事業（店舗運営事業）においては、ナショナルブランドファッション商品などを展開する『GINZA LoveLove』とコスメやファンシーグッズなどの『&choa!』の店舗戦略の最適化を図っております。

(2) 財務基盤の安定化

前事業年度において、第15回乃至第17回新株予約権を2025年6月に、また、第18回及び第19回新株予約権を2025年12月に発行し、9億円超の調達を行ったことで、厳しい業績の中でも最低限の資金と純資産を維持しております。

今後、第18回及び第19回新株予約権の行使による資金調達を活用し、上記の営業力強化施策を確実に推進し、財務の安定化を図ってまいります。

但し、資金調達の状況は、新株予約権の行使時期や株価推移の影響を受けることになります。

また、金融機関との融資取引において、一部の取引先金融機関と締結する「譲渡担保権設定契約」に係る財務制限条項に抵触しております。当該条項に関しては、抵触した場合に合理的と認められる是正措置を講ずることで、ただちには期限の利益の喪失とはならないとされており、お取引先金融機関に引き続きご支援をいただける旨を確認しております。

以上のとおり、現在、当社は事業基盤の強化に向けた様々な施策と財務基盤の安定化のための施策を行うことで業績の改善と安定した資金の確保を図る途上にありますが、これら施策の実現可能性は、新規商材については、当社を取り巻く経済環境をはじめ、様々な要因による影響を受けることになります。また、市場からの資金調達は需給関係やタイミングの点で必ずしも目指していた結果が得られるとは限らないことから、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が存在するものと認識しております。

なお、財務諸表は継続企業を前提として作成しており、重要な疑義の影響は財務諸表に反映しておりません。

(四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第1四半期累計期間 (自 2025年3月21日 至 2025年6月20日)	当第1四半期累計期間 (自 2026年3月21日 至 2026年6月20日)
減価償却費	11,391千円	1,151千円